

認知行動療法を活用した 児童思春期の子どもと保護者、 教師への支援

児童思春期のメンタルヘルス

認知行動療法の基本と実践

保護者支援

学校との協働



演者

大野 裕 先生

一般社団法人認知行動療法研修開発センター 理事長

ストレスマネジメントネットワーク代表(大野研究所所長)／長崎大学 客員教授

日時 **2026年11月7日(土) 8:50～10:50** [120分]

会場 **長崎大学医学部記念講堂(第1会場)**

単位認定 日本精神神経学会 精神科専門医資格更新のための研修単位／子どものこころ専門医 認定更新対象講習

オンデマンド 後日オンデマンド配信を予定しています。配信期間等の詳細は決定次第、学会ホームページにてお知らせします。

参加費

学会員 無料

非学会員 10月18日(日)までの登録 **2,000円** / 10月19日(月)以降の登録 **3,000円**

参加登録は
こちら



講演要旨

本セミナーでは、児童思春期の子どもと保護者の支援で認知行動療法を活用する可能性について考えることにします。近年、出生コホート研究などから、ほとんどの人が精神疾患の診断基準を満たすような精神的不調を体験していることがわかってきました。しかも、その6割近くが、思春期までに起きています。ただ、興味深いことに、大半の人が医療機関を受診することなく改善していました。

認知行動療法はこうした立ち直る力を引き出し育てるアプローチで、悩みを抱えた児童思春期の子どもはもちろんのこと、そうした若者を見守り支える保護者や教育関係者、さらには医療者が活用できる要素が多く含まれています。本セミナーでは、そうした認知行動療法の基本的な考え方とアプローチの可能性について、演者自身の思春期の体験も交えながら紹介したいと考えています。

演者プロフィール

1950年、愛媛県生まれ。1978年、慶應義塾大学医学部卒業と同時に、同大学の精神神経学教室に入室。コーネル大学医学部、ペンシルベニア大学医学部への留学を経て、慶應義塾大学教授を務めた後、2011年6月より国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター 初代センター長に就任、現在顧問。日本認知療法・認知行動療法学会初代理事長、日本ストレス学会理事長を歴任。日本経済新聞「こころの健康学」、読売新聞「人生案内」執筆中。

第136回日本小児精神神経学会 2026年11月7日(土)・8日(日)

会場:長崎大学医学部記念講堂・良順会館(長崎市坂本1-12-4)

大会長:熊崎 博一(長崎大学医学部精神神経科学教室 主任教授)

運営事務局:株式会社インテックス

TEL 095-826-3333/E-mail jsppn136@in-tex.co.jp



大会ホームページ